

志あふれるまち

鹿児島県
志布志市

SHIBUSHI
KAGOSHIMA, JAPAN



地方創生関係交付金の効果検証について

令和7年度実施事業

1. 地方創生関係交付金の概要について	1
2. 効果検証の目的について	3
3. 令和7年度実施事業について	
① 多世代交流拠点施設整備事業（総合政策課） ...	4
ア 事業の概要	
イ 本事業についての意見聴取	
ウ 令和7年度の実績	
エ 重要業績評価指標（K P I）の達成状況	
オ 効果検証	

1 地方創生関係交付金の概要について①

■ 交付金の目的

地方から都市部への人口の流出をとどめ、持続可能で魅力的な地域を創生（地方創生）するために、地方自治体が進める独自の取組を支援する国の交付金

■ 交付金を活用する条件

市として、地方創生を効果的に進めるための「総合戦略」や「地域再生計画」を、交付金事業を含めて策定する必要がある。

また、地域で様々な役割を担われている皆さま（まちづくり委員会等）の積極的な参画を受けて進めることが条件となっている。
具体的には、交付金事業の計画内容についての意見聴取、**事業実施による数値目標の達成状況の把握・効果検証**を行うもので、その結果については公表する必要がある。

1 地方創生関係交付金の概要について②

■ 交付上限額・補助率

1 市町村10億円/年度、補助率1/2、事業期間は原則 3 か年以内

■ 交付金制度のこれまでの変遷

年度	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
額(億)	1000	1900	1600	1600	1600	1600	1660	1800	1735	3000	2600	
名称	地方創生推進交付金						デジタル田園都市 国家構想交付金			新地創 交付金	地域未来 交付金	
内訳	推進交付金						推進タイプ			ソフト事業		
	整備推 進交付 金	拠点整備交付金					拠点整備タイプ			拠点整備事業		
	—				テレ ワーク 交付金	デジ田 推進交 付金	デジタル実装タイプ			デジタル実装型		
	—									インフラ整備事業		
	—									地域防災整備型		

※R7の交付金の正式名称は「新しい地方経済・生活環境創生交付金」

2 効果検証の目的について

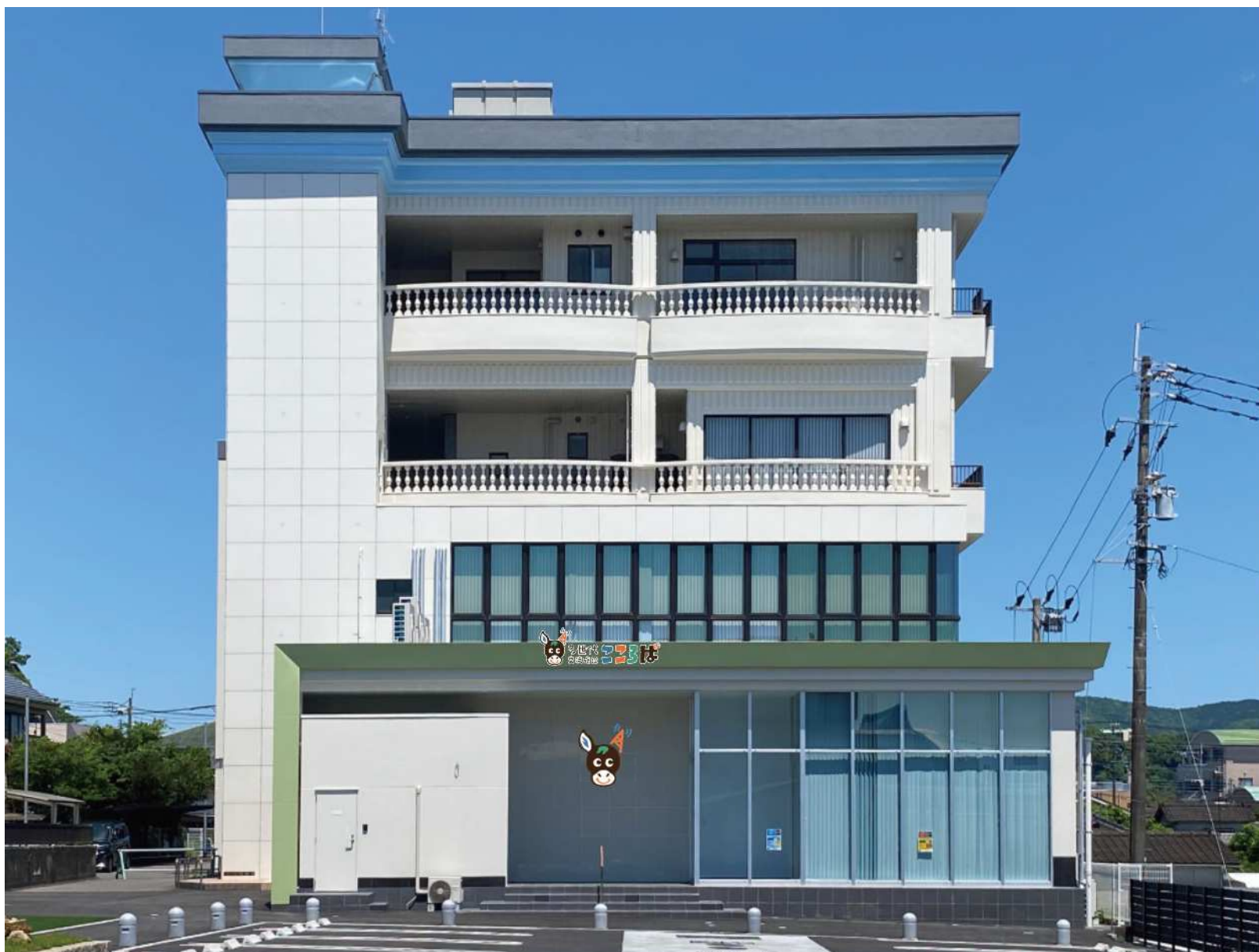
■ 交付金制度要綱より

交付金制度要綱第11「効果の検証」では、
本交付金の交付を受けようとする地方公共団体は、**事業の実施状況に関する客観的な指標（K P I）を設定の上、その達成状況について、毎年度検証するものとする。**
と規定されている。

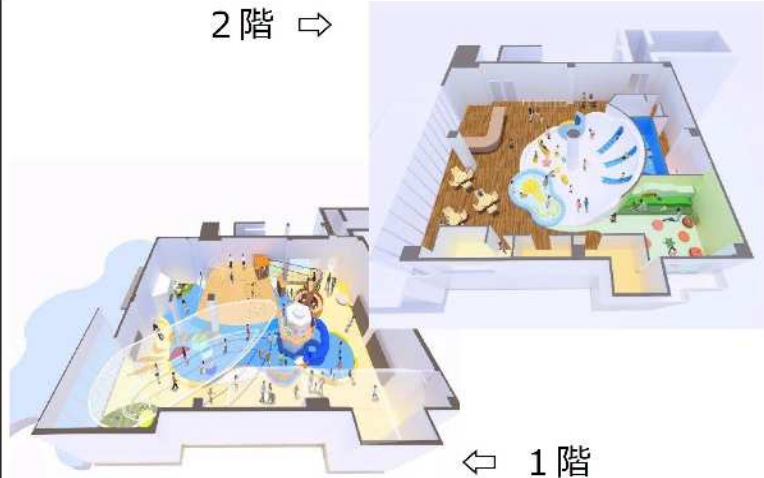
■ 効果検証の方法

委員の皆様からいただいた意見や質問を中心に、交付金事業を実施することが、客観的な指標（K P I）の達成に有効であったかなどについて「まちづくり委員会」で議論し、効果検証を行うこととする。

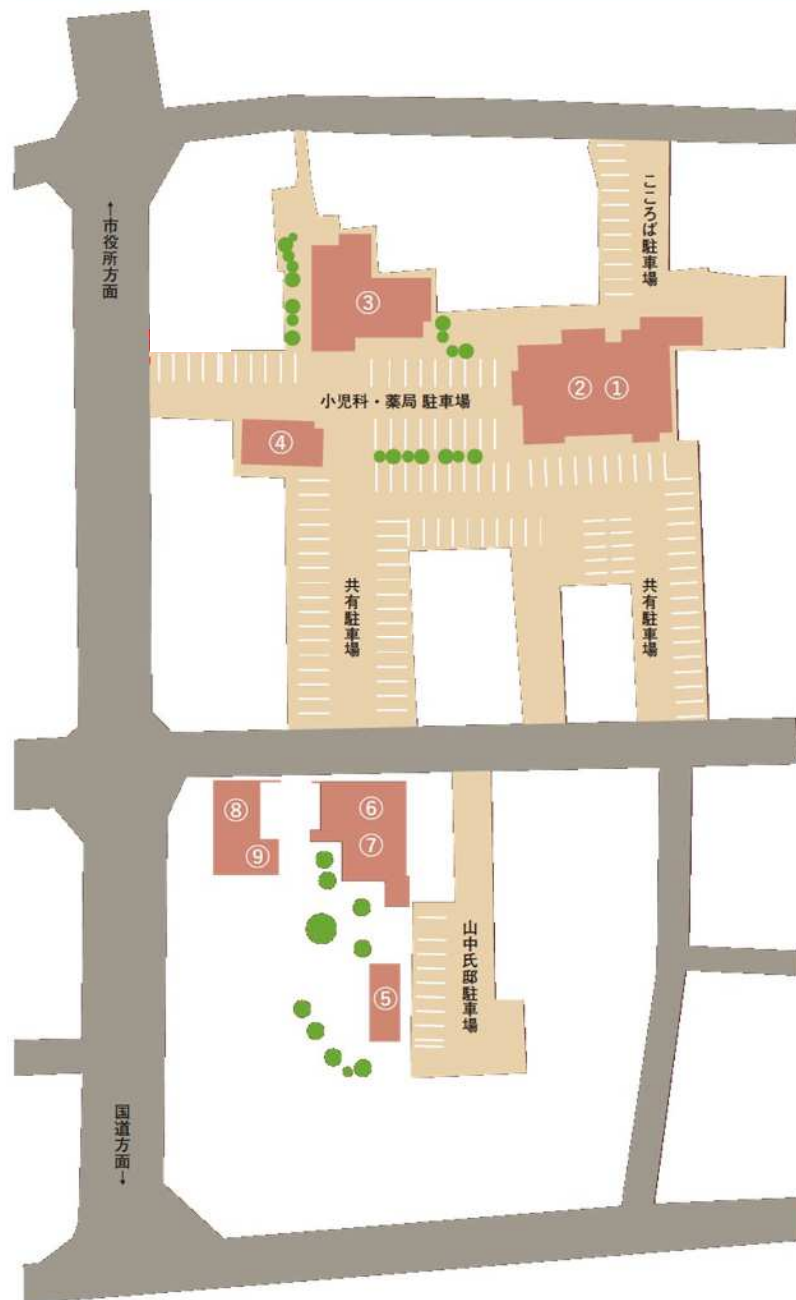
3-① 多世代交流拠点施設整備事業（総合政策課）



3-①-ア 事業の概要①

申請者	鹿児島県志布志市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	781,560千円 (682,378千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフラ 整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	商店街内の空きビルに、季節や天候に左右されず利用できる子ども向け屋内遊び場、コワーキングスペース等の機能をもった本市に今までなかった「多世代交流拠点施設」を整備し、多世代・企業等の交流を生むことで、まちの魅力を高め、交流人口を増やし本市への人の流れを作る。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【事業概要】 多世代交流ができる施設として、屋内外の子どもの遊び場、相談室、会議室、コワーキングスペース、カフェスペース等を整備し、子育て世代を中心に多様な世代が交わり、新たな交流が生まれる地方創生の拠点施設を整備する。 【拠点整備事業経費】 商店街内の空きビルに多世代交流拠点施設及び駐車場を整備 ・施設整備 677,481千円 ・子育て支援エリア（1階、2階） ・交流の拠点エリア（3階、4階） ・駐車場整備 4,897千円						
地域の多様な 主体の参画	住民と行政が一体となった住民参画のまちづくりの推進を図り、市の振興と市内各地域の近郊の発展に資することを目的とする「まちづくり委員会」に事業構想段階からまちづくりの観点から参画していただいている。交付金事業の初年度が終了した時点で、まちづくり委員会を開催し、まちづくりや市の振興の観点から事業の進捗状況・効果測定をしていただき、各意見をPDCAサイクルに反映する。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①移住者数（+77人） ②交流人口数（敷地全体利用者数）（+19,000人） ③施設入館者数（+16,250人） ④子どもの遊び場への入館者数（+9,500人） ⑤イベント開催数（+14回）

3-①-ア 事業の概要②



■敷地全体のコンセプト (SENGEN PARK)

かつて多くの商家が軒を連ね、「千軒町」と呼ばれるほどに栄えた志布志。当初の面影残るこの町並みには、自然豊かな港町特有の文化や営みが紡がれてきました

歴史あるこの町が人々の活気に溢れ、賑わい、その志が数珠つなぎのように広がり、文字通り「志布志千軒」となるようにと願いを込めて、名付けられました

この場所が、これまでも、そしてこれからも、温かな文化を後世へ紡ぐ拠点、賑わい溢れる公園のような人々の拠点（よりどころ）になりますように

3-①-イ 本事業についての意見聴取①

■ 令和6年度まちづくり委員会

本事業について、計画段階において地域の皆様から御意見をいただくため、令和6年10月3日に開催されたまちづくり委員会において、現地視察と意見聴取を実施した。



委員会での協議の結果、本市に今必要とされている事業内容であり、是非進めていただきたいとの結論であった。

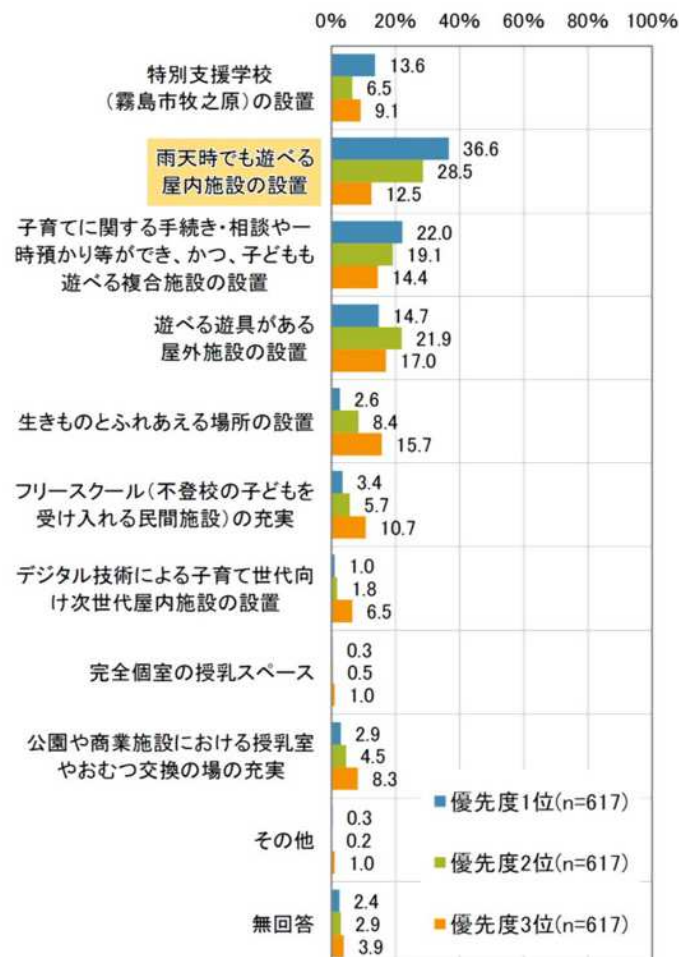
その後、庁内での協議を経て施設の実施設計に着手。

3-①-イ 本事業についての意見聴取②

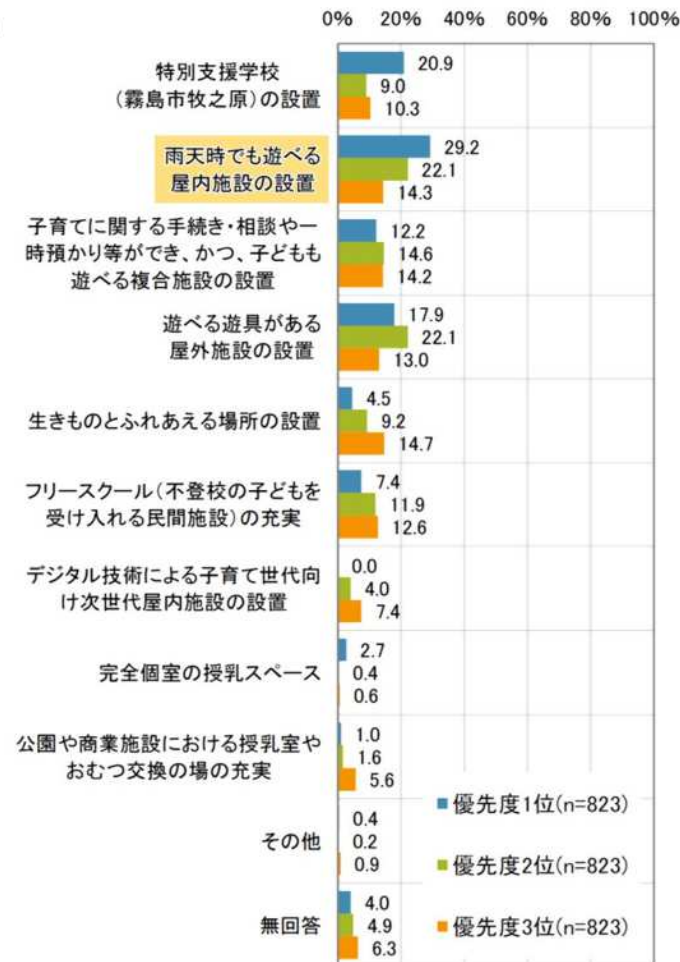
■ 子ども・子育て支援事業計画でのニーズ調査

子育て支援に向けて、市に整備を望む施設として「雨天時でも遊べる屋内施設の設置」という意見が約3割（回答数1,440件）

■ 就学前児童



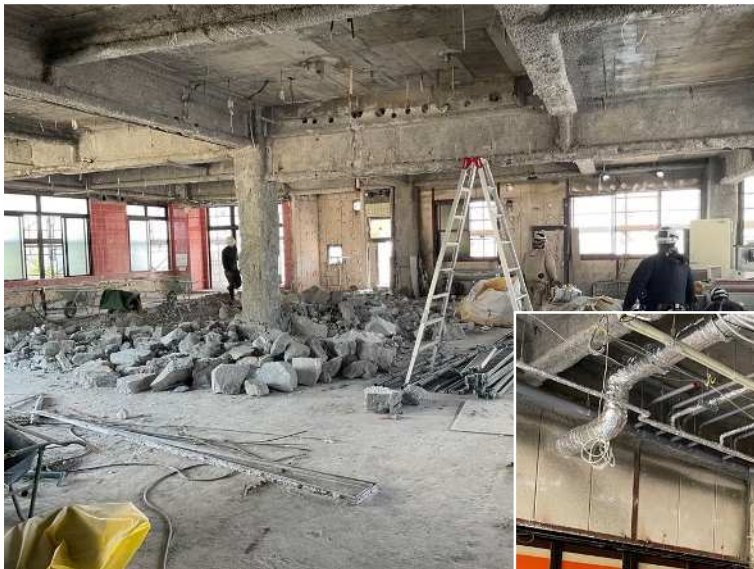
■ 就学児童



3-①-ウ 令和7年度の実績①

■ 建物改修・駐車場整備

令和7年度は交付金を活用して、既存建物の全面改修、屋内遊具の設置、エレベーター棟の新設、駐車場の整備などの施設整備を実施。



2階浴場跡の解体



1階の改修状況

エレベーター棟の新築



■ 施設条例の整備

子どもから高齢者までの多世代の交流を促進し、居場所となる場所及び機会を提供するとともに、交流人口の増加及びにぎわいの創出を図ることを施設の目的に、市議会の審議を経て令和8年1月に施設条例を整備。

条例の中では、サービス向上と運営費の節減、民間の柔軟なアイデアやノウハウを生かす指定管理者制度の導入を可能とした他、将来にわたり施設を維持し、運営を継続するために、応益負担の考え方のもと施設利用者に利用料金を設定。

■ 指定管理者の選定

令和7年5月には民間事業者の参入意向や施設の収益性等を図るサウンディング調査を実施。また、類似施設の調査を継続。

施設条例の整備後から令和8年2月まで指定管理者を公募したところ2社より応募あり。選定委員会を経て、市議会で指定管理者が決定された。

3-①-I 重要業績評価指標（K P I）の達成状況①

■ 本事業の実施により達成を目指す指標・総事業費

年度		R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
指標								
移住者数	事業実施前からの指標の増加分	0	9	17	17	17	17	77
交流人口数(敷地全体利用者数)		0	12,000	4,000	1,000	1,000	1,000	19,000
施設入館者数		0	11,000	3,000	750	750	750	16,250
子どもの遊び場への入館者数		0	6,000	2,000	500	500	500	9,500
イベント開催数		0	4	6	2	1	1	14
総事業費：千円 (下段は交付金)		687,280 (341,015)	113,252 (56,626)	0	0	0	0	800,532 (397,641)

3-①-I 重要業績評価指標（KPI）の達成状況②

■ 令和 7 年度の指標達成状況・事業費

達成状況 指標	目標値 (A)	実績値 (B)	達成度 (B/A)	実績が上回った要因、 または下回った理由	(参考) 7/4 開業 後の状況
移住者数	0	0	0%	令和 7 年度は、施設の 整備や運営方針の決定 を中心に事業を進める 計画とし、指標の増加 は測定できないため、 目標値を全て 0 に設定 令和 8 年度は施設の開業 に向けて、運営に必要な 備品やシステム等の整備 を進め、7 月 4 日に開業 することができた 現在は、令和 8 年度以降 の指標達成に向けて、指 定管理者と協力して運営 に当たっている	—
交流人口数（敷地 全体利用者数）	0	0	0%		—
施設入館者数	0	0	0%		3,713 (16,250)
子どもの遊び場へ の入館者数	0	0	0%		3,588 (9,500)
イベント開催数	0	0	0%		1 (14)
事業費：千円 (下段は交付金)	687,280 (341,015)				—

■ 令和7年度事業について委員からの御意見・御質問

Q 1 前回のまちづくり委員会（改修前）のときから見ていて、今回いい施設ができたと思った。後はこの施設をP Rして、今年度以降利用者を増やしてほしい。

A 1 今後のP Rが大事だと思っている。指定管理者とともに大隅半島のこども園、学童等にP Rしているところである。そこから個人利用に繋げていきたい。

その他、Instagramなどを使って、広報していきたい。今日施設を御覧になられたことで、委員の皆様もそれぞれの関係団体にP Rしていただきたい。

Q 2 会議の場（交流室）はどういった人でも使えるのか。

A 2 3・4階は21時まで空いているので、目的に応じてぜひ使っていただきたい。

■ 令和7年度事業について委員からの御意見・御質問

Q 3 一昨年、宇城市「うきのぼ」に研修に行ったが、当該施設に引けを取らない建物だった。この建物を活かして移住にも力を入れてほしい。

A 3 関係人口、短期滞在などにも力を入れ、保育園留学、高校留学なども進めており、ゆくゆくは移住に繋がるような政策を推進していきたい。

Q 4 目標値で交流人口、子どもの入館者数の数字を減らしているのはなぜか。

A 4 施設の入館者数の数字は前年度からの上積み人数を設定しているので、減らしているものではなく、増加数が記載されている。

■ 令和7年度事業について委員からの御意見・御質問

Q 5 前回のまちづくり委員会で、観光者の交流の場も設けたいということだったが。

A 5 観光の目的地として組み込んでいただいたり、観光で本市に滞在しつつ、コワーキングスペースで仕事をしていただいたりと、多様な使い方をしていただきたい。

Q 6 日南線が赤字路線で、日南線に列車が来なくなる可能性もある。J Rとタイアップした旅行もいいのではないか？広域にアピールする機会を設けると良いと思う。

A 6 J R日南線の担当も総合政策課で担当している。将来をどうするか協議しているが、一方で利用促進も行っている。沿線市のこども園等にP Rしていきたい。

■ 令和7年度事業について委員からの御意見・御質問

Q 7 移住者について 都城市は全国でも取り上げられるような補助金を出している。

補助金も充実させれば、移住者が増えると思われる。

A 7 都城市までの条件を提示することはできないと思われるが、若者に志布志市に定着してもらう必要がある。保育園留学、二地域居住の取組などで、志布志市を知ってもらうよう力を入れている。

Q 8 開業してから3,713人という数字は、一か月間の数字か。

A 8 令和8年7月の一か月間の数字である。夏休みで利用者が増えることを見込み、指定管理者と夏休みまでの開業に向けて動いていた。

■ 令和7年度事業について委員からの御意見・御質問

Q 9 夏休みに開けていただけて良かった。遠方から帰省した三女がころばを利用して、志布志市がいいと気に入ってくれた。地元の発信が必要になると感じた。

A 9 今回の委員の皆様は、各種団体を代表して選出されている方々なので、ぜひ皆様も各団体に持ち帰って、PRしていただきたい。

Q 10 アウトドアの大浜緑地公園の整備と、インドアのころばの整備を志布志市は行っているが、双方の利用をどのように増やしていくのか。

A 10 こころばは小さい子ども向け、緑地公園は大きな子ども向けなど使い分けができる。

また、雨天時や、夏場の熱中症の危険があるときにころばを利用していただくなど、双方の施設を使い分けてほしい。

■ 令和7年度事業について委員からの御意見・御質問

Q11 千軒町は密貿易で栄えた街であり、当時の宝物もたくさんある場所である。イベントに繋げてみてはどうか。

A11 夏休みの取組として、ラジオ体操を実施した。いただいた意見も参考にし、今後もイベントを増やしていきたい。

Q12 令和8年度のイベントの実施目標が4件だが、すでに決まっているイベントがあるのか。

A12 紙粘土を使ったイベントができないか検討している。また、楽器ができる社員が多いので、親子で楽器に親しむイベントも実施したいと考えている。その他、季節を感じるイベントも実施していきたい。

■ 令和7年度事業の評価

本事業は、地方創生のために有効であったといえる。